
もしも、夕飯が猫缶だけだったら 前編？序章？

裕理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしも、夕飯が猫缶だけだったら 前編？序章？

【Nコード】

N1485Q

【作者名】

裕理

【あらすじ】

前作、もしもコンビニの店員が猫になったらの続きになります。

前作を読んでいない方でも読める作品にしてみました

あと、今回もとても短いですw

もしも、夕飯が猫缶だけだったらどうする？

とりあえず、ご飯にかけて食べれるか検証します

By 裕理

俺はこの状況をどうしようか悩んでいる。この状況とは俺以外の家族全員の食卓のスペースにはうまさうな夕飯が用意されているのに俺のスペースには「猫も大喜び 高級猫缶」が置いてあることだ。事の始まりは夕飯の前の俺に原因がある……。塾の帰り小腹がすいていたのでコンビニによって、わけの分からない店員に弁当を適当に取ってきてもらい帰路をさらに進んだときの出来事だった。

「お、準じゃん、こんなところでなにしてた」と、不意に声を掛けられた

「おお、巧か、そのセリフそっくりそのままお前に返すぜ」

「俺は今から、うどん食べに行くんだが……そうだ準、奢ってやるうか」

「マジか、それはありがたい」

俺は断る理由がなかったので友人の言葉に甘えることにした。俺はこの時知らなかった、いや知る余地ものかつたんだ、これから最悪の事態が起こることを……。

「それじゃあな」

「おう」

うどんを食べ終え俺たちはそれぞれの帰路についた。

「持つべきものは友達だよな、そうだ今度新作のDVDでも貸してやるか」

そう独り言をつぶやき玄関を開け家に入ったところで母親に

「おかえり、あんた夕飯はどうする」

俺は、うどんを食べたことによりお腹が余りへっていなかったのだから友達に奢ってもらったからいらぬ、後コンビニで買った弁当がある」

「そう、わかったでもコンビニの弁当食卓で食べてよ」

「ん、どうして」

「あら？言つてなかった、今日はあんたの姉が帰つてきてるのよ」

「そうだったな」

そういえばそんなこと朝言つてたような、ちなみに俺の姉は有名な大学に留学していて

年に一・二度しか顔をあわせることができないんだが・・・。

「巧く元気にしてた」

荷物を置きリビングに入ると、姉が声をかけてきた

「元気にしてたよ、そっちは」

「見てのとーりでーす」

（まあこの姉のことだ留学先でも元気にやっているだろう）

「「いただきます」」

家族全員で食卓を囲み合唱をして俺以外が夕飯をたべはじめたころ

「お前はなにを食べるんだ」

と父親に聞かれてしまった

「ああ、コンビニ弁当」

と聞いて俺はふと思った

（そういえばあの店員何入れたんだろ）

そう思いながらコンビニの袋に入つた物を食卓に恐る恐る置いてみたそこには

「猫も大喜び 高級猫缶」

瞬間、家族全員が言葉を失つた

このあと如何したかそれもまた別の機会に・・・語れるのか俺・・・

(後書き)

今回も読みにくい文を最後まで読んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

1でもいいので評価してくれるとうれしいです。
また感想を書き込んでくださるとやる気ができます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1485q/>

もしも、夕飯が猫缶だけだったら 前編？序章？

2011年1月16日07時04分発行